

d e f c o u s データなしの r a s データを

MTEによるUXDデータの解析

2020年12月11日

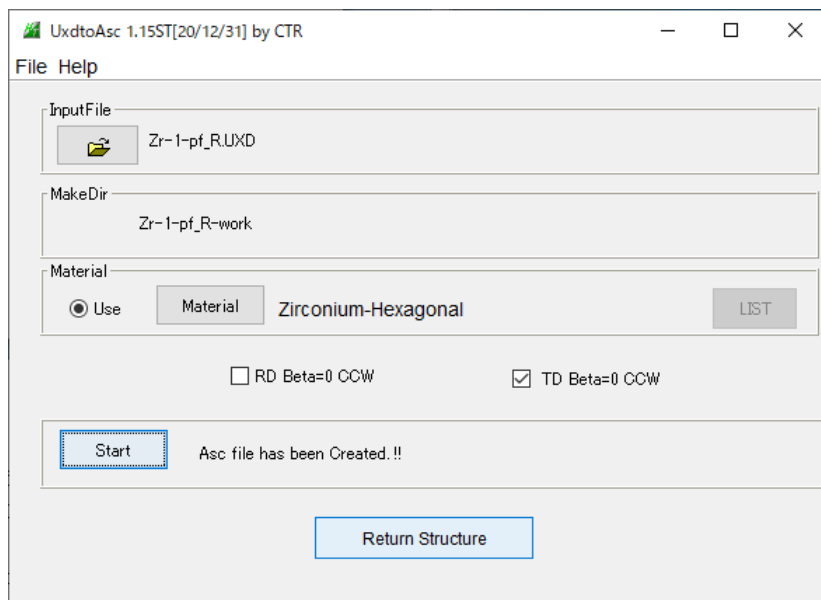
HelperTex Office

概要

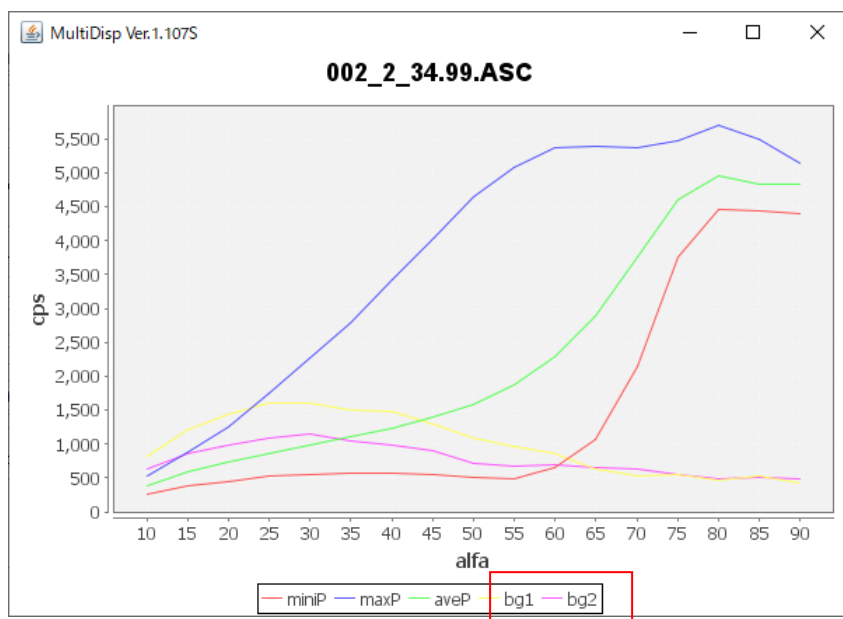
MTEXのPoleFigureデータとして、Bruker. UXDデータが付属している。
しかし、このUXDデータの物質名は不明のため、処理は出来ないが、MTEXで処理するためには、バックグラウンドデータとdecousデータも必要になります。

調べてみると、MTEXには、correct()関数があり、バックグラウンドプロファイルとdefocusプロファイルがあれば、バックグラウンド処理とdefocus処理は可能の様ですが実際には存在していない。

以前UXDデータを解析した時は、UXDからASCに変換しASCを調べると

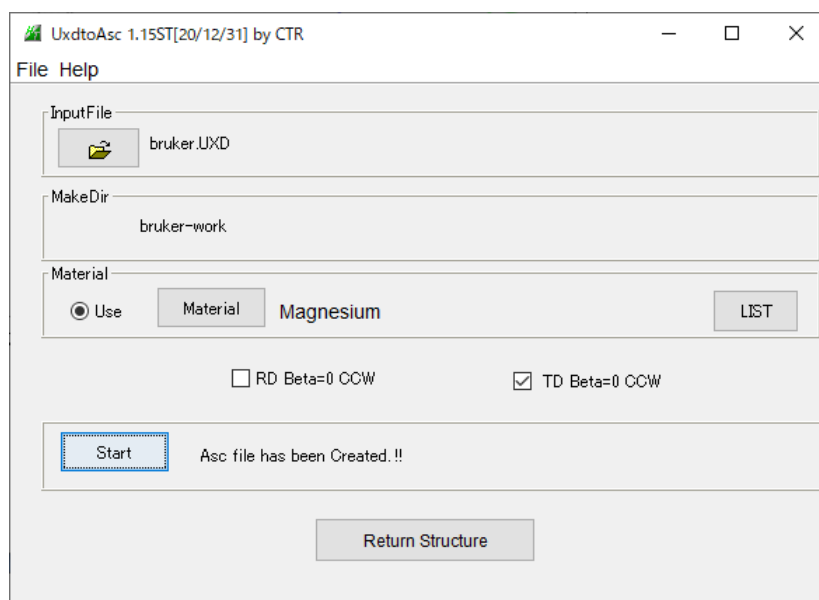


002_2_34.99.ASC	2020/12/11 17:58	RINT20007スキャン	16 KB
100_3_32.14.ASC	2020/12/11 17:58	RINT20007スキャン	15 KB
101_1_36.65.ASC	2020/12/11 17:58	RINT20007スキャン	16 KB
102_0_48.12.ASC	2020/12/11 17:58	RINT20007スキャン	15 KB



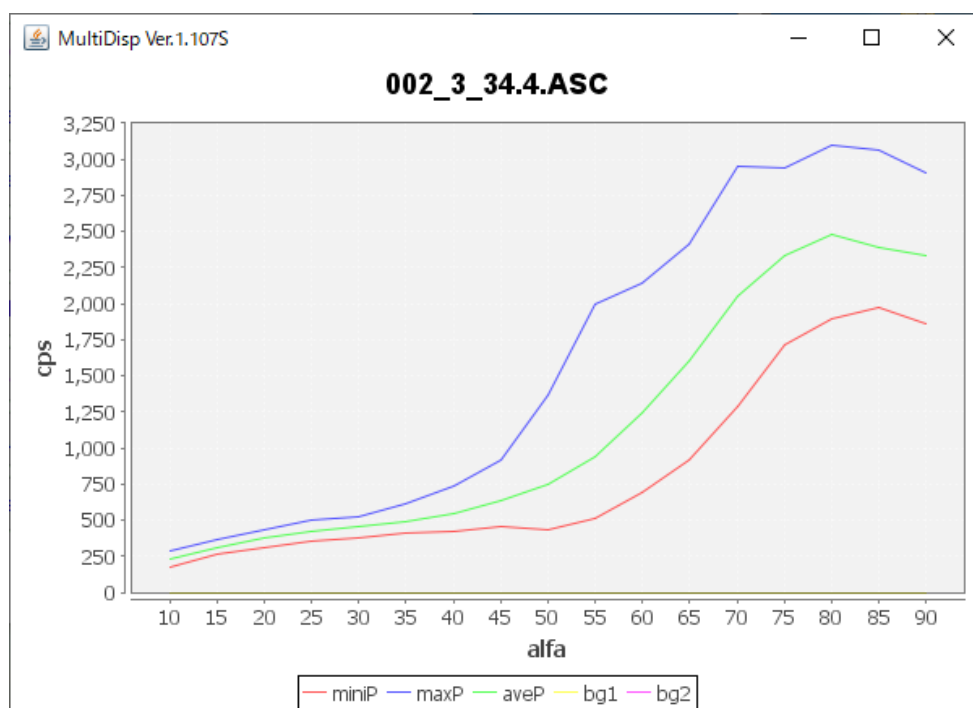
バックグラウンドが登録されています。

しかし、Bruker. UxDでは、UxDからASCに変換



mtex-5.4.0 > data > PoleFigure > bruker-work

名前	更新日時	種類	サイズ
_1_31.0.ASC	2020/12/11 18:04	RINT20007ｽｷｰ	15 KB
002_3_34.4.ASC	2020/12/11 18:04	RINT20007ｽｷｰ	15 KB
101_2_36.45.ASC	2020/12/11 18:04	RINT20007ｽｷｰ	15 KB
102_0_47.8.ASC	2020/12/11 18:04	RINT20007ｽｷｰ	15 KB



バックグラウンドの測定がされていません。

しかし、Bruker社の測定ではバックグラウンドも同時測定は可能と思われるので、データとしては不十分、更に、物質名も分からず、ODF解析出来ません。

測定 2θ は 31.0、34.4、36.45、47.8 で、Magnesium とすると、31.0 が不明

_1_31.0.ASC
 002_3_34.4.ASC
 101_2_36.45.ASC
 102_0_47.8.ASC

若し、物質名が分かれば、`xrdml,ASC,ras` と同じようにA S C変換を行い処理できます。
U X DからA S C変換は、UXDtoASC ソフトウェア説明書を参考にして下さい。